

第54回「市民の皆さんとランチで対話」概要

団体名	能代市バスケットボール協会
開催日時	平成23年2月9日（水） 正午～午後1時
開催場所	市長応接室
出席者	別紙のとおり
案件	意見交換など
会議の概要	<p>市長との対話内容</p> <p>渡邊会長：能代カップ等に協力してもらい感謝している。協会ではジュニアの育成など底辺拡大に取り組んでいる。協会主催の大会が年数回あるが、一般女子チームの参加が増えてきている。その子どもたちも学校でバスケをすると思われ、良い傾向になっていると思っている。ミニバスは、バスケ経験者が監督を担ってくれている。ミニバスが盛り上がりつつも、中学校に行くことで部活が無い、指導・管理する先生がいないという現状がある。</p> <p>板橋理事長：協会の事業計画や大会の収支決算を説明</p> <p>市長：能代工業高校バスケ部がいつまでも強いことが、「バスケの街のしろ」でのまちづくりの大きな柱。市でもジュニアの育成をしっかりとやっていかなければならないと思っている。若手職員チームもジュニア育成のため、ホームページで動画配信を始めた。それで十分とは思っていないが、お互いに行き届くことがまだまだあると思うので、要望があれば教えてほしい。また、中学校でバスケの指導者が不足しているのは問題。県も「スポーツ立県あきた」計画を進めているので、県にバスケ経験のある先生方に指導などについての協力をお願いしたいと思っている。アリナスを活用した合宿誘致など、バスケでまちおこしを考えているが、個人的には、バスケに狂う日があっても良いと思っている。能代工業高校が初めて全国制覇した日などを記念日とし、街中でバスケに親しんでいるイメージ。街なかのスポーツカフェではバスケの大会の優勝シーンが放映されていて、隣では子どもたちが3on3で楽しんでいる。そのような、まちづくりという観点があれば、行政ももっと応援できると思う。ジュニアの育成による競技力の維持向上が地域活性化につながり、能代の文化となり、バスケの街になると思う。</p> <p>若狭副会長：能代カップの来場者数は頭打ち。協会は大会運営で精いっぱい。市から警備や会場案内等でボランティア協力してもらい助かっている。地元出身の選手が試合に出ればもう少し来場者数の増加も期待できるとしている。</p> <p>市長：能代カップ開催時に体育館周辺でイベントを行えば経済効果ももっと期待できると思う。役割分担が必要。</p> <p>船山課長：ジュニアの育成面では、教育長杯という冠の大会を開いていることや、バスケクリニック等で有名な選手と触れ合える機会も増えているなど、良い傾向。中学校の部活は、監督（先生）をフォローする地域のコーチも必要。</p> <p>若狭副会長：能代工業高校には、優勝カップなど飾るものがたくさんある。まちづくりに活用できるのでは。</p> <p>市長：駅前から能代工業高校までをバスケ通りにして、能代工業高校の栄光を展示</p>

	<p>するなど、バスケの街を実感してもらうことに役立つと思う。</p> <p>若狭副会長：肝心の協会の収支予算は厳しい。</p> <p>市長：収支を見れば、各種大会の会場使用料が高い。</p> <p>船山課長：参加チームが増え、大会が数日間行われているのも原因の一つ。</p> <p>板橋理事長：バスケの街で開催される大会を、総合体育館やアリナスでなく、学校の体育館を借りなければならないかもしれない。</p> <p>市長：子どもにとって、総合体育館での試合は晴れ舞台。学校の体育館ではだめと思う。補助の在り方については、検討させてほしい。</p> <p>松山次長：バスケの街づくりとして、数あるスポーツの中でもバスケに特化している。能代カップについては、商工会議所が行ったアンケートをみてもリピーターが多い。経済効果もあり、広く能代らしさを発信していければと思うので協力をお願いしたい。</p> <p>市長：今後もこのように話し合いできる機会を作って頂ければと思います。</p>
--	--